

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年12月14日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年12月14日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【5号機常用空気冷却器用冷水ポンプ(B)の軸固着について】 当直員が、5号機常用空気冷却器用冷水ポンプ(B)点検作業後の水張の際、同ポンプの軸が固着していたため、ハンドターニング※が出来ないことを確認。 現在、常用空気冷却器用冷水ポンプ(C)が運転中のため、冷却運転に問題なし。 今後、分解点検予定。</p> <p>※ハンドターニング:手で軸を回転させ、回転状態の異常の有無を確認する。</p>	GⅢ	12月8日
2	<p>【6号機バッテリー室空調ドレンラインコーキング部からの結露水の連続滴下について】 当直員が、6号機バッテリー室空調ドレンラインコーキング部から水が連続滴下していることを確認。 漏えいした水をスマヤ測定し、バックグラウンド相当のため結露水と判断。 バッテリー室空調の運転を「送風」にし、ドレンラインからの滴下は停止。 漏えいした結露水を拭き取り済み。 送風運転に異常はなく、室温20度程度に保たれているため、バッテリー室の環境に影響なし。 今後、修理予定。</p>	GⅢ	12月7日
3	<p>【5号機所内用空気系空気圧縮機の後置クーラー用ドレントラップ※の不具合について】 当直員が、5号機所内用空気系空気圧縮機の後置クーラー用ドレントラップが吹き止まらないことを確認。 当社社員が現場を確認した結果、ドレントラップ先の排水口に空気のみが排出されること、ドレントラップ入口弁・均圧弁を一旦全閉にしたが吹き止まらないことから、ドレントラップの開固着と推定。 現在、6号機より所内用空気を供給しているため、問題なし。 今後、当該ドレントラップの点検・修理予定。</p> <p>※後置クーラー用ドレントラップ:圧縮した空気を冷やす過程で発生した水分等を捕集する機器</p>	GⅢ	12月9日
4	<p>【5号機所内用空気系空気圧縮機の後置クーラー出口逆止弁のシート漏えいについて】 当直員が、5号機所内用空気系空気圧縮機が停止中にも関わらず、空気圧縮機吐出圧力計に指示があることを確認。 現場にて調査の結果、後置クーラー出口逆止弁廻りの他の弁の開閉、および、その際の吐出圧力計の指示値を確認し、シート漏えいと判断。 現在、6号機より所内用空気を供給しているため、問題なし。 今後、点検・修理予定。</p>	GⅢ	12月10日
5	<p>【33.5m盤の資機材仮置き場における重機下の鉄板上への油溜まりについて】 協力企業作業員が、33.5m盤の資機材仮置き場にて、今後使用予定の重機下の鉄板上に油溜まりがあることを確認。 重機を確認したところ、アーム先端部の油圧ホース部が紛失していた。周辺を捜したが見当たらず。 油溜まりの処理・片付け、および、油圧ホース接続部の仮養生を実施済み。 紛失した油圧ホースを新規手配中。納品後、重機に接続し使用予定。</p>	GⅢ	12月9日
6	<p>【サブドレン集水設備No.4中継タンク内の油混入について】 当社社員が、3号機および4号機原子炉建屋西側のサブドレンピットから汲み上げた水を収集しているサブドレン集水設備No.4中継タンク内の表層部浮遊物を回収した際、水面上に粘性の高い濁った水があること、および、油系の異臭がすることを確認。 当該タンクから水を採取し分析したところ、油分が検出。 また、同タンク系統のサブドレンピット(全8ピット)から水を採取し分析したところ、No.40のピットからも油分を検出。 2020年12月2日の水位計低低警報発生時より、サブドレン集水設備No.4中継系統を停止中。 同タンク系統の停止前の水を受け入れていた下流側のサブドレン一時貯水タンク(E)分析結果には油分は確認されていない。 2020年8月3日～2020年8月7日に同タンクを清掃した時は、油分は確認されなかった。 今後、原因調査、および、油分の回収・清掃等、対策を検討予定。</p>	GⅢ	12月7日